

日本災害看護学会JSDN / 第45号 2023年 6月 12日

【事務局】日本災害看護学会事務局（株式会社ガリレオ学会業務情報センター）

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F TEL.03-5981-9824 FAX.03-5981-9852

http://www.jsdn.gr.jp/ e-mail : g034jsdn-mng@ml.gakkai.ne.jp

新年度を迎えるにあたり

理事長 酒井 明子

日本災害看護学会設立25周年を迎えました。学会へのご支援・ご協力を賜り、会員の皆様には敬意と感謝を申し上げます。

さて、2023年は関東大震災から100年という節目の年。関東大震災では10万を超える人命が失われたが、その多くは焼死だった。医療活動が本格化するまでの救済は、救護班ではなく民間人によって行われた。阪神・淡路大震災では、約7割が圧死だった。救出の主体の約8割は近隣住民だった。東日本大震災では、約9割が溺死だった。震災直後、瓦礫の中の生存者を探し続けるなど行方不明者の捜索は、近隣住民によるものだった。災害の歴史を振り返って見えたことは、近隣の地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人が世代や分野や地域を超えて支え合い、いのちと生活を守ってきた事実である。

国難級の災害が複合的に同時あるいは復興過程が重なって発生することが懸念されている現在、日本は、少子高齢化、労働人口の減少、食料の自給率の低下という課題も抱えている。この脆弱性を克服するためには、長期的な視点で、持続可能な社会を構築する必要がある。災害の進化に伴い、当然、新たな課題が次々と発生してくる。ただ、その中にあり、どの災害においてもいかに人やコミュニティが災害に強くなるかが問われてきた。地域ごとの特異な課題に対して、地域が自ら主体的かつ自律的に取組むことが期待されている。

日本災害看護学会では、これからも、現場で地を這うような位置に視点をおいて、人のいのちと生活を守る学会活動を模索し続けます。今年度は役員改選となります。会員の皆様におかれましては、引き続きご要望・ご意見をお寄せくださいますと幸いです。

日本災害看護学会第25回年次大会 大会長挨拶
さあ、今こそ対面で災害看護のこれらについて考えましょう！

第25回年次大会長 大野 かおり

日本災害看護学会第25回年次大会をアクリエひめじ（兵庫県姫路市）にて開催することとなりました。今大会のテーマは「実践共同体で育てる災害看護の底力」です。災害支援に関わる人々の多様性、専門性の壁を越え

て、ときには役割を開放しながら活動することで、他者を理解し助け合う文化が生まれます。また、実践共同体での学びは災害支援に関わる人々の相互理解を深めるとともに、それぞれの実践能力の向上につながり、災害支援活動に変革をもたらすと考えます。

今回の年次大会は第25回という節目の大会になります。大会1日目には25周年特別講演、2日目には25周年記念式典と25周年記念特別企画、海外からの招聘講演を予定しております。

また、今回は会場開催の予定です。3年ぶりに姫路でみなさまとお会いして議論することで、差し迫った大規模災害への備えを盤石なものとするとともに、これからの学会の展望についても考える機会となることと期待しております。姫路の特産品を用意して、懇親会（イブニングティーパーティー）も予定しております。

多くの方々にご参加いただけますようこちらよりお待ちしております。

第25回年次大会ホームページ

<https://plaza.umin.ac.jp/jsdn25/>

事前登録期間

2023年 4月10日（月）10：00～6月30日（金）17：00

第25回年次大会市民公開講座のご案内

社会貢献・広報委員会 委員 伊東 愛

この度、記念すべき日本災害看護学会第25回年次大会の市民公開講座では、朝日放送「おはよう朝日です」でおなじみの気象予報士正木明さんをお招きして、「正木明さんと学ぶ、天気予報の活用術ーかしこく備えよう！今日から天気予報の見方が変わるかも!?ー」というテーマで、市民の皆さまと一緒に楽しく学びたいと考えています。

私たちは普段、生活の中でテレビやラジオ、インターネットなどから、天気予報を見たり聞いたりしていると思います。そして、降水確率の数字によって傘を持って行くかどうか決めたり、洗濯物を室内干しにしたりしているのではないのでしょうか？

そして自然災害の中でも台風や大雨などの事前に予測できる水害については、天気予報を活用することによって、被害を最小限にとどめたり、備えたりすることが可能になるのではないのでしょうか？

しかし、もしかしたら私たちは天気予報に関して問

違った理解をしていたり、天気予報というものを正しく理解していないかも知れません。

気象予報士の正木明さんは防災士の資格もお持ちで、自然災害発生時には防災士の知識を活かして、実生活に役立つ防災情報を伝えておられます。また、自治体などが主催する防災講演会など、講演経験も豊富です。この機会に、気象予報士の正木明さんから気象学の知識や長年の経験による知恵を得て、天気予報を活用し、一緒に賢く災害に備えませんか？目から鱗の発見があるかもしれません。本学会会員の皆さまだけでなく、ご家族、友人、知人の方など周囲の方々もお誘いいただき、ぜひご参加ください。多くの方のご参加をお待ちしております。



正木 明

気象予報士（一期生）・防災士

1961年5月5日生まれ
兵庫県生まれ、神奈川県育ち
(現在は兵庫県在住)

現在のレギュラー

テレビ「おはよう朝日です」

朝日放送 月曜～金曜 5:00～8:00 (1990年～)

ラジオ「正木明の地球にいいこと」

ラジオ関西 月曜 13:00～13:25 (2019年4月～)

新委員会「災害看護倫理検討委員会」のご紹介

災害看護倫理検討委員会 委員長 増野 園恵

2021年度より災害看護倫理検討委員会が設置されました。本委員会は、災害看護実践および研究に関するさまざまな倫理的課題について検討し、会員相互の議論の促進を図り、倫理的課題に対する理解を深めることを目的としています。

災害は人々の生命や生活を脅かし、社会全体に大きな混乱をもたらす事態です。多くの支援が必要であるにもかかわらず資源が限られ、集団・社会の福利のために個人が後回しになることも少なくありません。また、「支援」の名のもとに、プライバシーや個人の基本的権利が脅かされる危険に絶えず晒されます。私たちは、災害看護の活動を通し、さまざまな倫理的課題に直面し、倫理的判断を迫られ、時には私たち自身が倫理的な問題を引き起こす側に立つこともあります。また、災害看護に関する研究が倫理的に適切に遂行されるためには、研究計画の倫理審査によりその研究の倫理性を担保することが重要ですが、所属機関での研究倫理審査が受けられない会員もあり、研究実施の障壁となっています。このような状況を受けて、本学会の目的を達成するために学会として倫理的課題にどのように対応するか明確な姿勢、方針を示すことが喫緊の課題となり、本委員会が設置されることとなりました。本委員会では、まずは、所属組織で研究倫理審査を受けることが困難な会員を対象とした研究倫理審査体制の整備に取り組みます。また、災害看護倫理、災害看護研究における研究倫理の推進に向けて、研修会等を企画・実施していきたいと考えています。そして、災害看護活動に関する倫理的課題および倫理指針の策定を検討していきます。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

Series委員会活動! 「国際交流委員会」

国際交流委員会 委員長 神原 咲子

国際交流委員会は、国際交流を通じた災害看護の発展を目指して活動しています。

大きな役割として、世界災害看護学会(WSDN)との連携活動と事務局の支援活動を行っています。WSDNは、日本での災害看護の発展の後、2004年のスマトラ沖地震・津波など活動から、グローバルなニーズを受けて、本学会が中心となり2008年に発足しました。昨年10月開催された、世界災害看護学会台湾学会では教育講演として近年の災害看護の動向をお話ししました。

特に、2015年以降は、仙台防災枠組2015-2030と、関連するその他のグローバルな枠組みの特徴とその流れを整理しながら災害看護がどのように災害リスク削減に貢献しているのかということについて、ボランタリーコミットメントを挙げて、看護の果たすべき役割を提案し、2030年の目標、持続可能で健康な国際社会への貢献をモニタリングし、発信しています。(https://sendaicommitments.undrr.org/commitments/20200102_001)

また、海外で災害が起きた際には、災害看護支援の検討も行います。例えば、2015年ネパールゴルカ地震発災時の際には、世界災害看護学会理事らやネパール看護協会長と情報交換を行い、募金活動委員会との連携、研修活動やネパール災害看護学会の支援にもつなげました。現在はトルコ地震についての検討も行っています。また、本学会ならびに日本における災害情報の発信、また学会員が国際的な動向をつかめるよう英文雑誌 Health Emergency and Disaster Nursing (https://www.hedn.jp/ja/) への投稿の促進しております。

コロナの社会的な打撃につづく、気候変動含む複合災害もある危機の時代を迎える未来に向かって、柔軟に対応しうるグローバルな災害看護学の発展に向けて会員の皆様と活動し貢献していきたいと思っております。

編集後記

今年最初のニューズレターをお読みいただきありがとうございます。早いもので、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大から3年が経過しました。感染症の位置づけが変わる中、遠隔でしか会えなかった学生や仲間たちと同じ空間で語り合える機会が増え、当たり前ではなかった日常の有難さをかみしめております。

今号では、理事長からのご挨拶、第25回年次大会長からのご挨拶、同大会市民公開講座について掲載いたしました。未曾有の事態を経て、年次大会が3年ぶりに現地で開催されることになり、会員・市民の皆様と対面での意見交換ができる、意義深い大会になると期待が高まっております。

また、新たに設置された災害看護倫理検討委員会の取り組み、国際交流委員会の活動(シリーズ企画)について掲載いたしました。大規模災害の発生が懸念される中、今後も皆様と共に災害看護学の発展、「いのちと生活を守る」活動に貢献していけることを心より願っております。

(社会貢献・広報委員会 委員 江口のぞみ)